

平成 27 年度 事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

1. 研究及び調査

平成 27 年度は事業計画に基づき、産業動物の衛生問題対策や食の安全性を確保する畜水産物の生産ならびに伴侶動物の疾病予防と健康管理など、社会の要請に応え貢献できる事業分野の基礎的および応用的研究 29 課題について実施しました。うち、外部からの競争的資金による受託研究として農林水産省食の安全・消費者の信頼確保対策事業から 2 件、日本学術振興会からの科学研究費 1 件、そのほか大学との共同研究 1 件を実施しました。

2. 研究成果の発表

- 1) 研究成果 6 件を学会発表しました。
- 2) 研究成果 14 件を誌上発表しました。
- 3) 特許について、国内外の特許出願取下げそれぞれ 1 件を実施しました。
- 4) 学術広報
 - (1) 日生研たよりを隔月に発行し、国内 809 ヲ所、国外 25 ヲ所、合計 834 ヲ所の関係機関と個人へ、無償で 978 部を配布しました。
 - (2) 日生研たよりや事業内容の広報、情報公開をホームページにより積極的に行いました。

3. 学会および研究会活動

1) 学会および研究会

当所の研究員は、平成 27 年 4 月 1 日現在、25 学会に延べ 56 名、8 研究会に延べ 12 名が所属しています。また、賛助会員あるいは団体会員として 23 の学会・研究会等の運営に協力しました。

2) 所内の研究会等

- (1) 研究課題の進捗状況・成果を発表する第一研究会を毎月 1 回定期的で開催しました。
- (2) 外部から専門家を講師として招聘し、公開講演会(第二研究会)を 2 回開催しました。
- (3) 各研究課題について研究推進会議を定期的を実施しました。
- (4) 研究員が広く知識を吸収するため専門誌に掲載された学術論文の抄読会を定期的を実施しました。
- (5) 研究員の語学力向上をはかるため毎週 1 回、米国人講師による英語教室を開催しました。

4. 研修および技術協力等

- 1) 国内外の 4 機関から合計 7 名の研修者を受け入れました。
- 2) 研究員等の知識・技術能力向上のため、所外で開催された学術集会、セミナー、シンポジウム、研究会、研修会、講習会等を延べ 62 名が受講しました。
- 3) 大学、研究所、動物検疫所、家畜保健衛生所などの延べ 12 機関からの要請に応じて抗原、免疫血清など、延べ 56 種類の研究材料を譲渡しました。

4) 大学および家畜保健衛生所等から微生物株など 36 種類の研究材料を譲受しました。

5. 講師等の派遣

各県や大学など国内延べ 23 機関で開催された研究会、講習会、研修会、業績発表会等に研究員等を講師、助言者、審査員等として派遣しました。

6. 外部組織・委員会・学会等の役員等

23 機関の外部組織・委員会・学会等の理事、評議員、委員、専門家としてそれらの運営等に協力しました。

7. 病性鑑定等

検査部では外部の依頼に応じ、臨床検査を行いました。また、研究開発部と協力してブタ、ニワトリおよびウシ、合計 224 件の病性鑑定を実施しました。

8. 実験動物の維持および生産

実験動物部ではニワトリ、ミニブタの 2 種の動物について、3 系統の実験動物を維持・管理しました。

9. 実験動物使用数

動物の愛護および管理に関する法律等に基づき作成した「実験動物福祉並びに動物実験管理に関する規程」に沿い、51 件の実験を行いました。

10. 日生研奨励賞の授与

本年度は日生研奨励賞選考委員会からの授賞候補者推薦はなく、授与はありませんでした。

11. 生物学的製剤および動物用医療機器の製造と供給

受託製造品目数

| 品目 | 鶏用 | 豚用 | 馬用 | 牛用 | 犬用 | 魚用 | 合計 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|
| 動物用ワクチン | 18 | 11 | 8 | 3 | 1 | 2 | 43 |
| 動物用診断液 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | 5 |
| 動物用医療機器 | 1 | | | | | | 1 |